

1. 調査報告概要表

作成日平成20年11月20日

【評価実施概要】

事業所番号	(評価機関で記入)
法人名	宗教法人 天理教市丸分教会
事業所名	グループホーム 陽気
所在地	長野県飯田市鼎下山270-1 (電 話) 0265-23-4552
評価機関名	福祉総合評価機構 長野県事務所
所在地	長野県飯田市上郷別府3307-5
訪問調査日	平成20年11月4日

【情報提供票より】(20年7月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 4 月 1 日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	8 人 常勤 8 人, 非常勤 人, 常勤換算 8 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨(一部木造) 造り 2 階建て 1 階 ~ 2 階部分
------	----------------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	0 円	
敷 金	有(円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要(7 月 1 日現在)

利用者人数	9 名	男性	名	女性	9 名
要介護1	3 名	要介護2	2 名		
要介護3	1 名	要介護4	3 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 84 歳	最低	73 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	健和会病院、蟹江病院、久保田歯科医院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このグループホームは宗教団体施設の一角にある大きな家といった感じで、花の咲く頃はきっと素敵なガーデンが見られる普通の家でもある。中に入っていくと、食堂で利用者と職員とが一緒に干柿の皮むきをしていて、大勢で住んでいる一つの家族のような雰囲気があった。管理者家族が住み込み、大黒柱として存在しているので、利用者にとっては安心して過ごせる場所であり、職員にとっても心置きなく利用者に向き合っていることのできる場所でもある。設立以来8年目を迎え、福祉サービス向上のため一步一步改善して、マンネリ化を防ぐ努力を続けている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価で課題となった「自己評価への取り組み」「運営推進会議の開催」「鍵をかけないケア」「献立表のアドバイス」など、改善への取り組みが着実にされている。まだ「地域に出るの交流」「家族会の設置」などの課題が残っているが、前向きにとらえているので、今後に期待したい。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	前回職員全員で取り組むことのできなかった自己評価を、今回は全員で取り組むようになったことが、職員のサービス向上についての気付きに成果をもたらしている。例えば、外出願望の強い利用者への細やかな対応に反映してきている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議を2か月に1回定期的に開くよう努力されてきているので、今後はマンネリ化を防ぐように会議の持ち方を工夫したり、会議の内容を活かすことのできるように記録をとって職員会で話し合ったりすると良いと考える。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族への報告は、毎月利用者の生活や健康の伝達に行事予定の連絡を加えて充実してきているが、家族の意見、苦情などの対応は訪問時の話し合いだけでなく、家族会を設置して多く方から聞いたりするなど、様々な機会を活用していくことが期待される。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	宗教団体施設に併設している関係を活かして地域の方の訪問を広く受け入れ、また、中学生の福祉体験学習に協力したり、オープンガーデンを開いたりするなどして、地域に開かれたグループホームを目指している。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「晴天の心で陽気ぐらし」をキャッチフレーズに、「すべての人が老人になっても長寿を嘆かなくてもよいように、家庭的な生活を通して支援の必要な老人の心身共の介護・ケアにつとめ、陽気ぐらしを目指します」という独自の運営理念を掲げ、地域と交流を進めている。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎週月曜日の職員会の折全員で復唱し確認し合い、理念の実践に向けて努力している。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	管理者家族が住み込み、自治会に参加している。また、宗教団体の分教会に併設しているため地域の方の来訪も多く、オープンガーデンを設け積極的に地域に開いている。そして、中学生の福祉体験学習・老人大学のボランティアなども受け入れ交流している。		利用者の状況を考えると全員参加は難しいが、地域でのお茶会などの計画が考えられているので、積極的に参加して地域の理解を広げていくことが望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価には職員全員で取り組み、外部評価の意義を理解してきた。また、前回の外部評価で課題とされた「献立を栄養管理士に見てもらい、職員会の記録をとる」など、改善に取り組んできている。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、定期的に運営推進会議を開くよう改善してきている。		運営推進会議を行事に合わせて開くようにするなど方法を工夫してマンネリ化を防いだり、会議録を残して意見などを活かしたりすることが望まれる。

グループホーム 陽気

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月に1度の介護事業者連絡会などに出かけたりして、市町村担当者と連携し、対応を話し合っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月利用者ごとに生活や健康についての報告をしたり、行事予定などを知らせたりするたよりを渡している。また、金銭管理についても金銭出納帳で報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に苦情処理の窓口の紹介をしたり、家族が訪問した時に話し合ったりしている。		グループホームでも考えているようであるが、家族会がまだできていないので作るように働きかけ、家族等の意見が反映できることを期待したい。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者家族が住み込んでいたり、職員の異動がほとんどなかったりするため、利用者にとっては、安定した職員と馴染みの関係ができています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市で開催された研修会や講習会で保健師や介護福祉士の方から話を聞き、成果を報告して互いに研修を進めている。		研修の計画を立て職員会の折に行うなど、内部での研修を充実することが望まれる。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	飯田下伊那地区グループホーム連絡会に参加し、防災・危機管理・ターミナルケアなどの勉強会を通して交流を図り、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用者や家族に来院してもらって事前面談を綿密に行い、場の雰囲気に馴染めるように努めている。また、管理者は家庭訪問を必ず行い、利用者のバックグラウンドの理解を進めるようにしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員の異動がほとんどないので、利用者との関係は安定している。「ちょっと家に帰ってくるでな」と言って外出する利用者に対し、そばに行きかけて送り出し、それとなく付き添っていく職員の姿が印象的であった。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>一人ひとりの利用者の発語や様子などから希望や意向の把握に努め、記録して介護計画に活かすようにしている。「家に帰りたい」と言う利用者には、実際に実家に行ってもらい、納得してから連れて戻るようにしている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>計画作成担当者を中心に介護計画を作成し、職員の共通理解を図っている。「安心してホームに生活できる」という課題を持った利用者には、他の人との交流を通して笑顔が見られるようにと目標を立て、気晴らし・お茶・ゲームなどを楽しみ、感謝の気持ちを表す、というような具体的な目標の実現を目指すように計画を立てていた。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>1か月に1回、職員会で読みあわせをしたりして、現状に即した対応ができるように介護計画を見直している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	その時の様態や事情に応じて受診の送迎を支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週金曜日に蟹江病院に往診してもらったり、かかりつけ医の必要な利用者は定期的に受診してもらったりするよう支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	日頃から重度化した場合や終末期のあり方については家族とも話し合っている。		マニュアルを作成し、利用者や家族の意向を記録に残していくことが必要と考える。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員会での話し合いを通して、利用者一人ひとりに応じて言葉かけや対応に留意している。また、記録等の個人情報も集中管理されている。		プライバシー確保の内部研修を計画して、さらに学習を進めていくことが期待される。
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを大切にしたり、希望を聞いたりして過ごすことができるように支援している。歌を歌いたい、草むしりをしたい、散歩したいなどの希望などは、お風呂に入っている時などに聞いたりするとよく話したりしてくれると職員が語ってくれた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきなどの下ごしらえや茶碗の後片付けなど、利用者の力を活かしながら食事ができるようにしている。また、職員はそれぞれのテーブルについて利用者と話しながら楽しく食事をしていた。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の曜日や時間については決められているが、職員が付き添い、一人ずつゆっくりと時間をかけ、話しかけながら楽しんで入るように心がけている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食堂で干柿作りのために柿の皮むきを利用者が黙々と集中して行っていた。一緒に皮むきをやりながら職員が褒めたりして、充実した一時を過ごしていた。また、利用者一人ひとりの特性に合わせて、歌や手遊び、カルタ遊びなど楽しみや気晴らしの支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くのスーパーに買い物に出かけたり、施設の周りなどに散歩に出かけたりできるように支援している。また、季節に合わせて、マイクロバスで花見や紅葉狩りなど遠くに出かけたりしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室には鍵をかけず、また、日中は玄関には鍵をかけるようにしている。玄関にはチャイムを備え、帰宅したがる利用者が出て行くときには、早めに声かけ付き添うように努力している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2・3回の避難訓練を実施してきたが、月1回の訓練ができるようにしてきている。また、地域の消防団の方に参加してもらうなど、協力を呼びかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	きざみ食やお粥、食事の量など、利用者一人ひとりに合わせた食事を心がけ、献立表も栄養士に見てもらい、栄養やバランスのとれた摂取に留意している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が6人から9人になって以来、居間が食堂の一部になって狭いが、利用者の部屋に集まったり、教会の広間を利用したりしている。大家族で狭いながらも我家と言った、家庭的で居心地よい雰囲気がある。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使用していた家具を置いたり、好きな飾り付けをしたりして、利用者本人が安心して過ごせるように配慮されている。		